

預言者イザヤ

シリーズ～旧約聖書入門～
2012/8/19



預言者イザヤの時代, 召命

- 南ユダ王国中期; ウジヤ~ヒゼキヤ王の時代
 - 北イスラエル王国が崩壊
 - アッシリアが南王国に侵攻し, エルサレムが危機
- イザヤの預言者としての召命(6章)
 - イザヤは王家の親戚だった?
 - 神殿での召命体験
 - 「するとセラフィムのひとりが、わたしのところに飛んで来た。その手には祭壇から火鉢で取った炭火があった。彼はわたしの口に火を触れさせて言った。「見よ、これがあなたの唇に触れたので／あなたの咎は取り去られ、罪は赦された。」そのとき、わたしは主の御声を聞いた。『誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。』わたしは言った。『わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。』」6:6-8

南ユダ王国に対する預言

• 形骸化した信仰

- 「雄羊や肥えた獣の脂肪の献げ物に／わたしは飽いた。雄牛、小羊、雄山羊の血をわたしは喜ばない。」1:11
- 「お前たちが手を広げて祈っても、わたしは目を覆う。どれほど祈りを繰り返しても、決して聞かない。お前たちの血にまみれた手を洗って、清くせよ」15

• 腐敗した政治

- 「支配者らは無慈悲で、盗人の仲間となり／皆、賄賂を喜び、贈り物を強要する。」23

• エルサレムのさばき

- 「シオンの男らは剣に倒れ／勇士は戦いに倒れる。シオンの城門は嘆き悲しみ／奪い尽くされて、彼女は地に座る。」3:25-26

ヒゼキヤの危機を救う(36～39章)

- アッシリアが南ユダ王国に攻め入り、ついにエルサレムを包囲した
- ヒゼキヤ王は、イザヤに祈ってくれるよう頼んだ
 - 「生ける神をののしるために、その主君、アッシリアの王によって遣わされて来たラブ・シャケのすべての言葉を、あなたの神、主は恐らく聞かれたことであろう。あなたの神、主はお聞きになったその言葉をとがめられるであろうが、ここに残っている者のために祈ってほしい。」 37:4
- イザヤは主からのメッセージを伝え、励ました
 - 「エルサレムから、残った者が／シオンの山から、難を免れた者が現れ出る。万軍の主の熱情がこれを成就される。それゆえ／主はアッシリアの王についてこう言われる。彼がこの都に入城することはない。またそこに矢を射ることも／盾を持って向かって来ることも／都に対して土塁を築くこともない。」 37:32-33

諸外国に対する預言

- ペリシテ(14),モアブ(15他),アラム(17他),エジプト(19),エドム(21),ティルス(23)
 - 「門よ、泣き叫べ、町よ、助けを求めよ／ペリシテの民は、皆、おののけ／北から、砂煙を上げて来る者があるからだ。」14:31
- アッシリア
 - 「主がその鞭をもって打たれるとき／アッシリアは主の声のゆえにおののく。」30:31
- バビロン
 - 「バビロンは国々の中で最も麗しく／カルデア人の誇りであり栄光であったが／神がソドムとゴモラを／覆されたときのようになる。」13:19
- 全世界
 - 「その日が来れば、主が罰せられる／高い天では、天の軍勢を／大地の上では、大地の王たちを。」24:21

回復の預言

- 「残りの者」を救い出される
 - 「その日が来れば、主は再び御手を下して／御自分の民の残りの者を買戻される。彼らはアッシリア、エジプト、上エジプト、クシュ、エラム、シニアル、ハマト、海沿いの国々などに残されていた者である。」11:11
- イスラエルの回復
 - 「まことに、主はヤコブを憐れみ／再びイスラエルを選び／彼らの土地に置いてくださる。寄留の民は彼らに加わり／ヤコブの家に結び付く。」14:1
- 主を信頼する者は
 - 「若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが／主に望みをおく人は新たな力を得／鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。」40:30-31

メシヤ預言

- 「インマヌエル(神が共におられる)」と呼ばれる
 - 「それゆえ、わたしの主が御自ら／あなたたちにしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって、男の子を産み／その名を**インマヌエル**と呼ぶ。」7:14
- エッサイ(ダビデ王)の血筋から生まれる
 - 「**エッサイの株からひとつの芽が萌えいで**／その根からひとつの若枝が育ちその上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊／思慮と勇気の霊／主を知り、畏れ敬う霊。」11:1-2
- ガリラヤ地方に現れる
 - 「先に／ゼブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けたが／後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた／異邦人の**ガリラヤは、栄光を受ける。**」8:23

苦難のしもべ(53章)

- 私たちの病や痛みを負う
 - 「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。」¹⁴
- 私たちの咎を背負って刺し貫かれ、打ち砕かれる
 - 「彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。」⁵「そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。」⁶
- 自らを償いの献げ物とする！
 - 「病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ／彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは／彼の手によって成し遂げられる。」¹⁰